

■ 特集

盛況極めた第4回JB東京展

延べ914社から5199点のリクエスト ビジネス本位の展示会として定着へ

11月7～9日、東京・青山ベルコモンズ9階で開催した「第4回JB（ジョイント尾州）06/07秋冬東京展」（主催・FDC）の最終報告をお知らせします。

1. 出展状況

1) 出展者	16社	
2) 出展点数	出展16社計	730点
	FDCインデックスコーナー	160点
	JBパリ9月展出展作品	107点
計		997点

なお今回は、JTC2005応募作品も内覧会形式で10階に展示した。

2. 来場状況

1日目	143名
2日目	297名
3日目	451名
計	891名

来場者は前回の1,074名に比べて183名減少した。この要因は 商談本位の展示会になり、フリー来場が少なくなった 会期が他のファッション大型イベントや大手服地卸の展示会と重複した 初日、JR山手線で事故があり、交通の便が奪われた、などと推察できる。



見本反請求は過去最高の103点

3. 受注状況

1) 総数

	< 1日目 >	< 2日目 >	< 3日目 >	< 合 計 >
サンプル請求 点数	131社から 700点	349社から 2087点	434社から 2412点	914社から 5199点
出展1社平均	8社から 44点	22社から 130点	27社から 151点	57社から 325点
見本反請求	33点	25点	45点	103点

前回展のサンプル請求に比べて236点減少した。これは来場者の減少を反映したものだが、来場者1人当たりの発注点数は

2) 1人当り発注

今回	5 . 8 4 点
前回 (6 月)	5 . 0 6 点

となり、「来場者は減少したが、濃い商談」ができたことになる。すなわちよりビジネス本位な展示会となった。

3) 見本反受注

また実際の原反契約に接近したアパレルからの「見本反請求」は過去3回を大きく上回る103点に達した。(参考までに過去は数点)。これもビジネス本位の展示会であったことを示している。出展者1社平均では約6点だが、まもなくその服地を使ったアパレルの受注展示会が開催され、服地が本契約につながる期待を持たせた。

4、発注者内訳

< 業 種 >	< 3 日間計 >	< 割合 % >
アパレル	3 1 8 社	3 5 %
小売店	3 4 社	4 %
商社・服地卸	5 3 6 社	5 8 %
その他	2 6 社	3 %
	9 1 4 社	1 0 0 %
出展 1 社平均	5 7 社	——

商社・服地卸が過半数を超えているが、これは「トレンド把握」を目的とした内容と思われる。アパレルが35%になっているが、この種の展示会では高い比率である。延べ318社のアパレルが尾州産地素材に関心を示し、サンプルリクエストしたことは大きな期待を抱かせる。今回は、特に著名デザイナー(系アパレル)が多数来場し、見本反を多くリクエストしたことが、注目される。

5、来場者の声(最終日)

FDCは会場で来場者アンケートを実施したが、その一部を紹介する。

1) 展示会に対する意見

「コンセプトが明確」、「展示が見やすい」(多数)、「テーマに統一感がある」(複数)、「テーマの説明がわかりやすい」、「時期的にタイミングが良い」、「会期に関しては要検討を」

2) 出展素材に対する意見

「結構、面白い素材に出会えた」、「カットソーを増やして欲しい」(複数)、「中国にはない新しい素材が多かった」、「エレガントな素材が多い」、「もっと薄くて軽い素材を充実させて欲しい」

3) 尾州産地に対する要望などその他の意見

「他産地とのコラボレーションに期待している」、「納期を守って欲しい」、「後加工を含めた新しい素材が多いが、素材そのものの追求を願いたい」

なお、次回開催は2006年5月で、前シーズンより1か月繰り上がる。